

安心生活創造事業への取組み

回収率
90.5%

1. 全戸アンケートを実施 (行政実施: 個別訪問 聞き取り)

平成21年7月～

- ① 高齢者は悩みや不安を聞いてもらいたい
- ② 意外と町の福祉サービスを知らない
- ③ 民生委員には聞きづらい場合がある
(公的な職員の方が相談し易い案件もある)

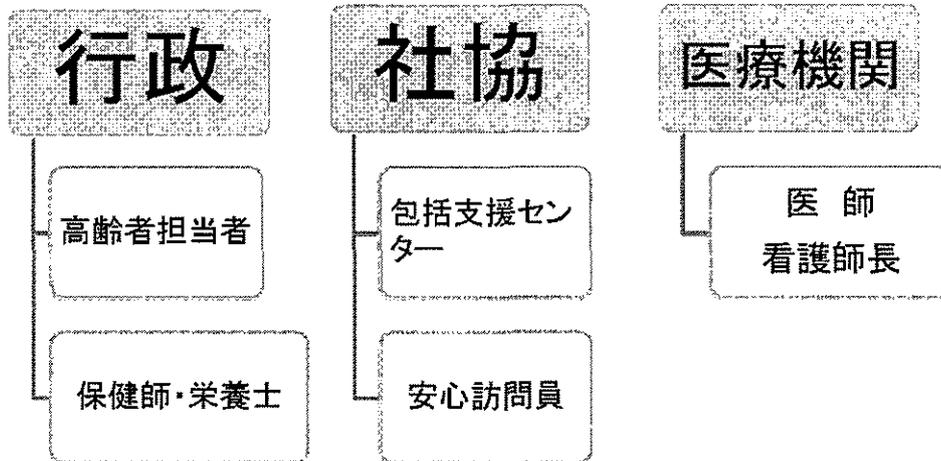
それで

2. 安心生活支援センターを設置 平成21年10月～
(社協委託: 専任の主任を1名配置)

3. 社協の各支所毎に訪問員(各2名: 兼務職員)を配置

- ① 平成22年1月～
気になる世帯を定期訪問(原則毎月一回)
- ② 平成24年10月時点の訪問対象者数
258人(高齢者人口 2,600人) → 約1割
- ③ 平成22年～23年度実績数
訪問: 延べ 5,044人/2年間 (月平均 210人)
相談: 延べ 3,922件/2年間 (月平均 163件)

安心定例会の毎月開催



- 1.目的 安心訪問時の様子等「気になる世帯」の情報交換、相談に対するアドバイスや各関係機関の役割分担や対応方法を協議
- 2.手法 安心主任が会議を主催、専門機関に早めにつなぐ
- 3.実績 平成22年1月から毎月各区毎に開催（延べ51回）

安心生活支援センターの概要

- 位置づけ 「気になる世帯」の調整コーディネート機関
- 活動概要
 - ①毎月の定期訪問
(悩み傾聴や相談、福祉サービス紹介、世間話等)
 - ②結果(様子や近況)をシステムに入力
 - ③定例会
(情報交換、具体的な支援方法の検討、担当機関の確認等)
 - ④安心かわら版の作成 (お役立ち情報チラシ=訪問時ツール)
 - ⑤安心メールの作成、発信

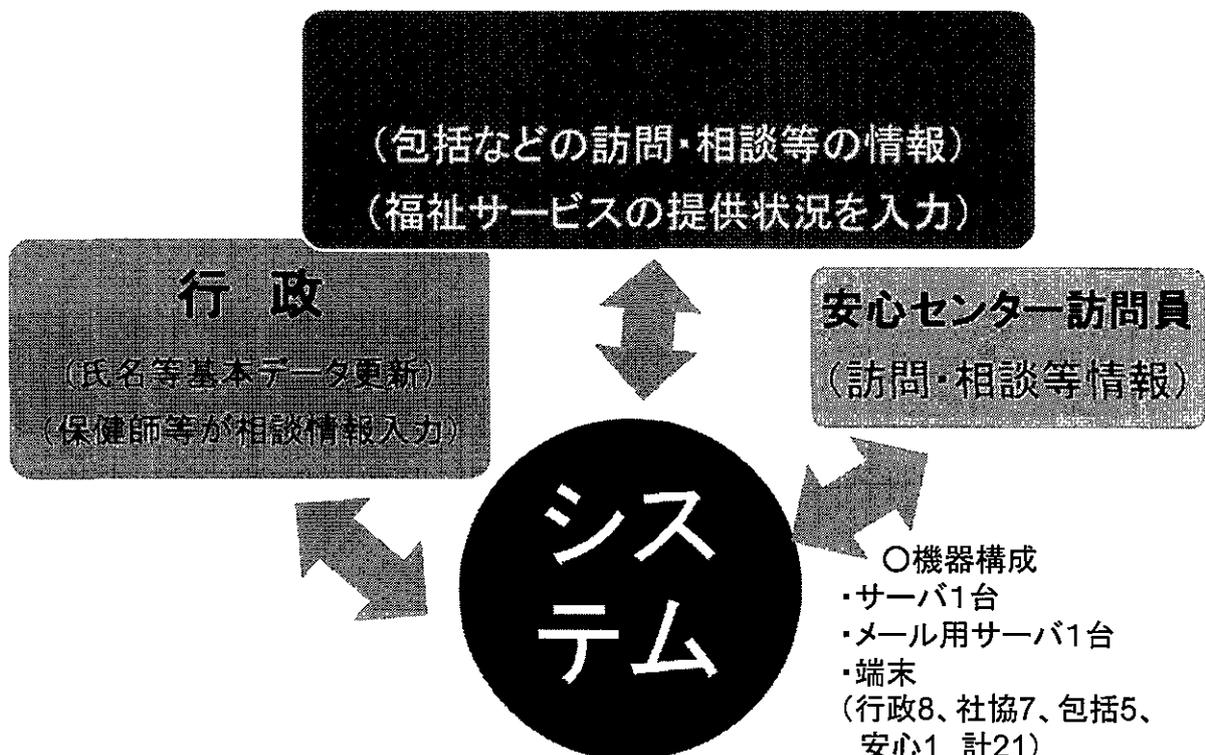
次にやったこと

4.安心ネットワークシステムの構築

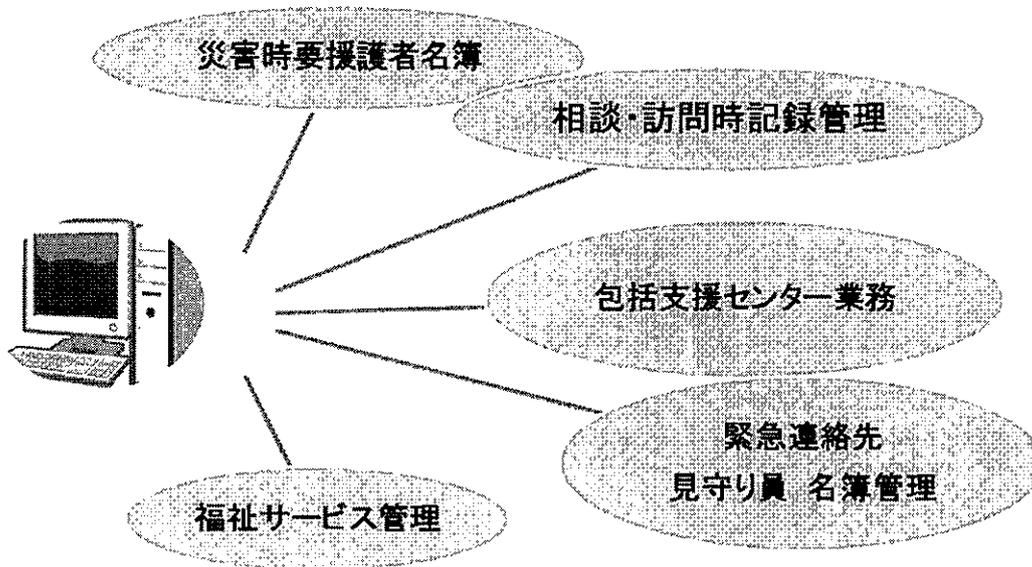


- ①縦割り支援の弊害 (支援を受ける側は一人)
 - ・誰が何時どのような形で関わっているのか。
 - ・行政と社協の垣根を越えて必要な情報を共有
- ②事務の効率性
 - ・社協におけるデータの信頼性
 - ・限られた職員、予算、時間を効率的に！
(訪問する時間の確保、集計等の事務効率等)

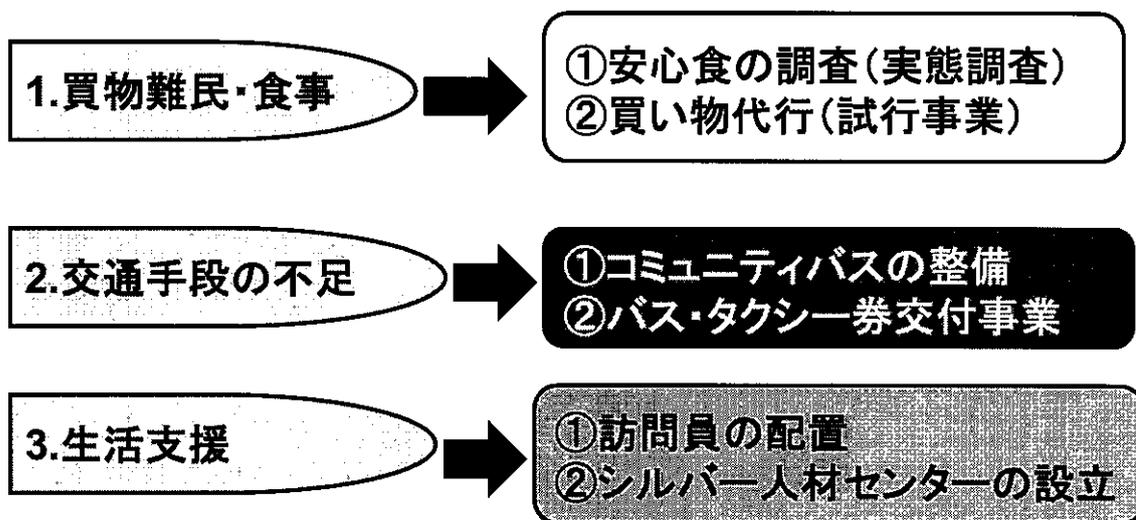
システムの概念図



システムの主な内容



美郷町の課題(当初の想定)



○アンケートでは、「気軽な相談相手」や「交通手段」が最も多い。

買い物難民対策

1. 買い物代行（商工会の試行事業）をやってみたら・・・

- ①ある地区では、買い物代行を試験的に実施
→ 注文少なく、事業継続が困難



- ②他地区では、県の補助事業を受けて商工会が御用聞き事業
(兼安否確認等)

○現状と今後の課題

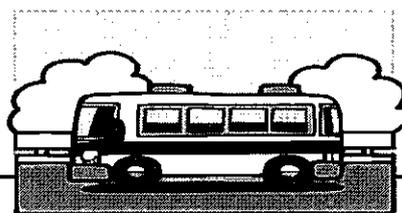
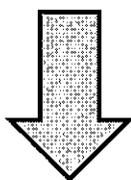
- ①地元商店等の訪問販売が支えている。→訪問販売なくなったら？
②近くの息子や娘等が定期的買い物をしてきている。
③利用料収入はわずか。
補助事業は、補助がなくなったら継続できるか？

2. 交通手段の確保

アンケートでは困っていることに「交通手段」をあげる人が最も多い。

コミュニティバスの運行を始めてみたら・・・

- ・タクシー代がかからなくなって喜びの声もある。
- ・バス停の位置、便数増について要望もある。



今後も引き続き検討を進め、改善を図っていく。

3. 生活支援強化

シルバー人材センターを作ってみたら……

(例)

- ・墓掃除 ・ごみ片付け
- ・庭木の剪定、庭の草刈り
- ・調理支援

○元気な高齢者が支援する側に回る仕組み

○生活支援に重要な役割 → 年々注文が増加

* ボランティアの支援 → 遠慮傾向(申し訳ない)

* シルバー → 遠慮しないで頼める。(金銭で割り切り)



⑤ 安心地蔵配布事業 (安心感の提供)

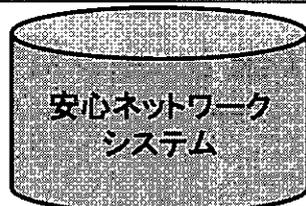
・冷蔵庫にマグネットで掲示

・緊急時に病院に持っていく

(本人、近所の人や民生委員、救急隊員等)

緊急連絡先(民生委員との協働にて整備)

本人	700名
緊急連絡先	1,620名



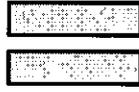
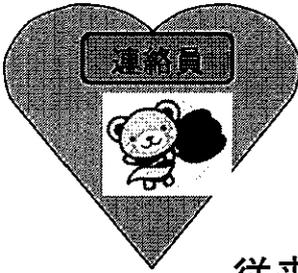
印刷

美郷町あんしん見守り地蔵



裏面に緊急連絡先等

愛の連絡員（近所の見守り員＝共助）



- ・従来の共助を、少し明確化するもの
- ・見守り員に特別な義務はない、責任もない

* あくまで「自主ボランティア」

* 登録者数 150名/480名(独居高齢者) 登録率＝約31%

* 年1回の意見交換会を開催

- (1) 連絡員の必要性などについて
本人や民生委員さん等から依頼等
- (2) 職員が本人に「候補者の確認」をする。
- (3) 安心生活支援センターがマッチング

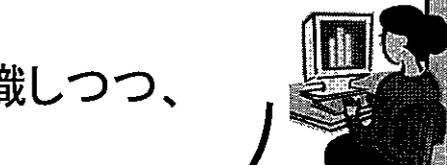
新たな仕組みづくり(現在進行形)

(1) 情報発信の仕組みづくり

○地縁のみならず血縁も意識しつつ、
支え手の環を作っていく

○ポイント

- ・町外身内を環に入れていく、
- ・安心を届ける
- ・地縁の支えを理解して欲しい(財源確保)



こんにちは! みさと安心ネットです。



ちょうど今やっていること

- 1、町外子供等へのメール発信 (H24.3月からスタート)
現在30件 内容は「親御さんの近況お知らせ」
* 訪問時情報をシステムから切り取って、専用サーバから送信

* アンケートを実施中

(メールを受け取った感想、「ふるさと納税」に関する意見等)

今後は「あんしん広報誌」を作成して、町外緊急連絡先に送付してPR予定
* その中で「安心メール」拡大や「ふるさと納税」呼びかけ

- 2、民生委員さんへのメール発信 (H24.10月からスタート)
* 訪問時や相談時に「ちょっと役立つ情報」
(民生委員さんの訪問活動等を少し後押し)
(例)町内での悪質訪問販売の情報
町の保健情報 (町立病院でインフル予防接種始まりました)

新たな仕組みづくり

(2)「気になる人を探せ」プロジェクト!

○民生委員との協働の下に
気になる世帯(人)を洩らさない
・各担当区の名簿を元に年1回チェック

○新年度の計画
・公民館活動の一環に入れていただく
・役員さんからも「情報」提供を!
・役員さんと民生委員との連携を仲立ち

今後の取り組み(構想)

(1) 新たな生活サポート事業

- ・会員制(年間数千円程度の会費)
- ・金銭管理(要望に応じて)
- ・生活支援

(契約によって支援内容を決める = オーダーメイド)

- ①支援員を確保 (適性のある方を有償ボラで)
- ②財源 社協寄付金を地域還元事業として活用
- ③進行管理 支援員には社協職員が指導、助言等

(2) 法人後見事業

- ・認知症高齢者の増加
- ・在宅障がい者への対応



* サポートセンターの設置で潜在的な相談が増えるのではないか。

(潜在的なニーズ = 将来への不安)

* 結果的に後見に至らなくても、財産や葬式のことなど相談できる場所があることが重要。

(3) 地域見守りネットワークの形成

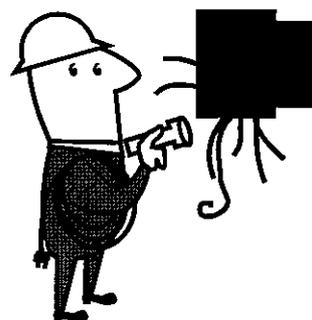
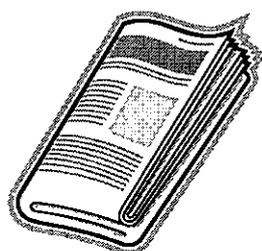
○従来の見守り体制に加えて

・ 事業所(建設業、商店、民間企業)

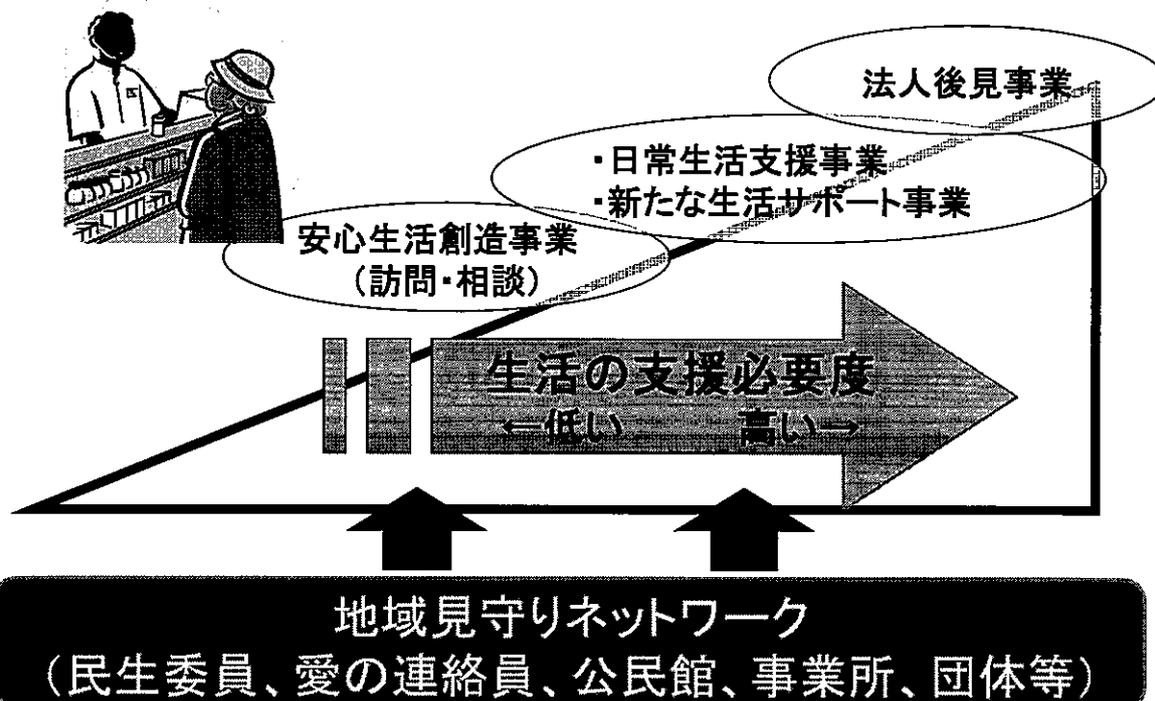
・ 公共的団体

(郵便局、農協、森林組合等)

(新聞、ガス、電気、水道検針員)



地域支援のイメージ



無縁社会に挑戦する豊中における安心生活創造事業の概要
 ~都市部における地域活動・有償活動・事業所による見守りの総合的な展開と社会的包摂~
 社会福祉法人豊中市社会福祉協議会
 地域福祉課長 勝部麗子

はじめに

1, 豊中の概況

人口	395,982
世帯数	176,597
高齢化率	22.0%
自治会平均加入率	45.7%
一人暮らし高齢者登録	5,606
校区見守り世帯数	12000 世帯

2, 豊中市社会福祉協議会の概況

(1)経過

昭和 58 年	法人化
昭和 62 年	賛助会費制導入
昭和 63 年	福祉の町づくり講座・給食サービス実施
平成 4 年	校区ボランティア部会
平成 7 年	阪神淡路大震災
平成 8 年	小地域福祉ネットワーク事業スタート
平成 9 年	ふれあいの町づくり事業指定
平成 10 年	小地域福祉ネットワーク事業が大阪府の事業に
平成 15 年	市と協働で地域福祉計画策定開始 全校区で校区福祉検討会
平成 16 年	地域福祉計画策定・地域福祉活動計画策定 福祉なんでも相談窓口&コミュニティソーシャルワーカー配置
平成 21 年	福祉公社と社会福祉協議会統合 安心生活創造事業
平成 23 年	発達障害者などひきこもりの就労支援事業実施 パーソナルサポート事業

(2) 一人暮らし高齢者を支える従来の地域福祉活動

- ① 校区福祉委員会 38 校区
 小地域福祉ネットワーク活動 見守り・声掛け・個別支援、福祉なんでも相談
 会食会、ふれあいサロン、ミニデイ
 重度障害者等安否確認事業 6288 世帯
 ひとり暮らし老人の会の支援
- ② 当事者の組織化
 ひとり暮らし老人の会 37 校区
 会員同士の助け合い ブロック活動、お元気コール シングル作品展 お誕生会
- ③ ボランティアセンター 友愛電話訪問 月 1 回 電話による
 個別支援 話し相手、外出支援、家のかたづけ、
- ④ 有償サービス 生活支援サービス、介護保険サービス、NPO などによる支援
- ⑤ 民生委員による一人暮らしの登録 見守り活動 (安心キット)
- ⑥ その他 貸付、相談事業、介護相談員派遣事業、外出支援事業 などなど

(3) 校区福祉委員会の変遷

38 校区福祉委員会

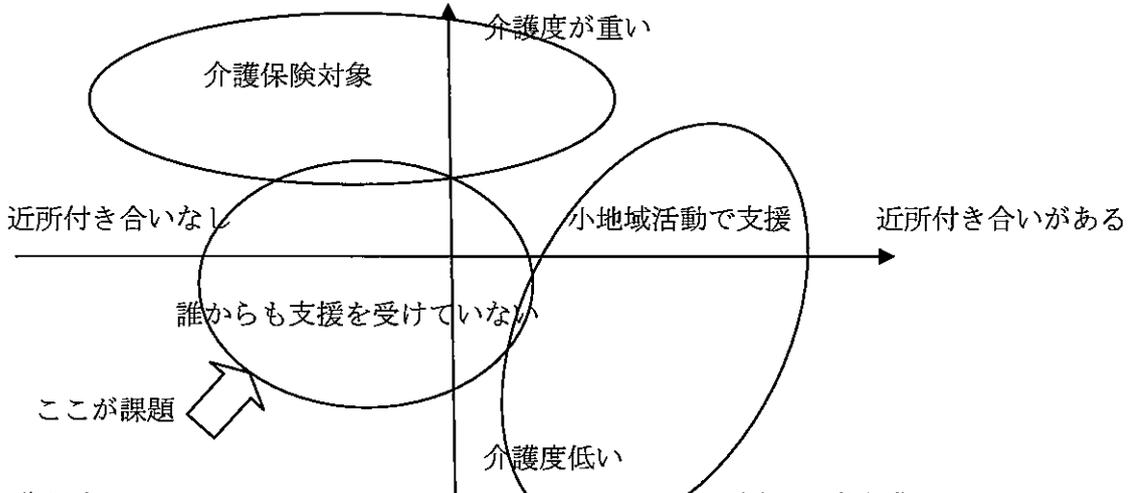
ボランティア部会の組織化

小地域福祉ネットワークを全校区で実施 地域ミニマムを確立

福祉なんでも相談窓口は地域ニーズの把握

地域福祉計画で配置されたコミュニティソーシャルワーカーが公民をつなぐ

3, 地域での一人暮らしの要援護者の把握



(1) 65 歳以上

サービス拒否
(CSW援助)
介護保険サービス利用
今回の事業対象

(2) 64 歳未満

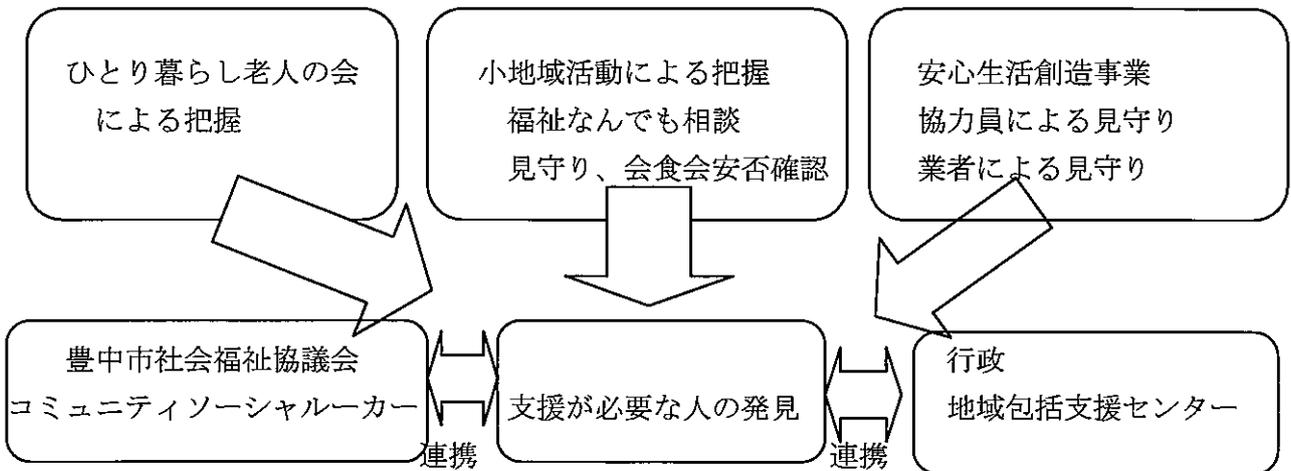
サービス拒否
介護保険サービス利用
事業対象

小地域ネットワーク

小ネット

*手帳がないとサービスがほとんどない
*パーソナルサポート

4, 安心生活創造事業の挑戦



5、本事業の3年間の成果

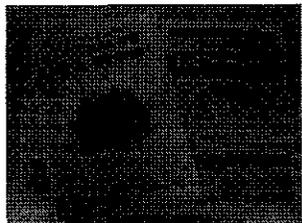
- 1) 安心生活創造事業推進委員会設置
- 2) ひとり暮らしアンケート調査 7000人
地域活動とニーズ把握と安心協力員希望者につなぐ
- 3) 安心協力員養成研修 213人
- 4) 校区福祉委員会での問題把握・解決 福祉なんでも相談に年間 500件 CSWで3000件
- 5) 安心協力員派遣サービス…有償サービス…新たなつながりの再構築・利用者の声
- 6) ひとり暮らし応援事業所ネットワーク…消費生活での新しいニーズ把握の仕組み
ステッカー、募金箱、買いもの便利帳
- 7) 安心生活創造事業シンボルマーク作成
- 8) 自主財源の確保

6、今年度の取り組みと課題

- ①利用者 65歳以上に拡大
*64歳未満 CSW事業によって解決（ひきこもりなど）
- ②利用料・登録料 非課税・生保世帯もいるが
*セーフティネットの課題のため利用料・登録料だけで賄うのは困難
*他の財源が必要
- ③訪問方法 一時間話すことが苦手な世帯・家をかたづけることの負担感
→安心コール実施
- ④新規希望者の調査 民生委員調査との組み合わせで一人暮らし登録が1000名掘り起こし
個人情報を活用することによる把握
- ⑤協力員 213名 交流会の開催(認知症サポーター研修含む)
- ⑥事業所ネットワーク 参画企業の拡大(例:銀行など)
マニュアル徹底、ステッカー再配布 研修の実施
- ⑦地域福祉活動との連携 安心キットの配布 *登録促進のために活用 登録者300人増
- ⑧買い物便利帳 掲載企業の拡大
- ⑨自主財源の確保 募金箱、新たな財源づくりの検討(ボランティアポイント制度)
(第4のポケット)
- ⑩無縁社会への対応 保証人、緊急連絡先、後見人

地域とのつながりの再構築

★ひとり暮らし応援買い物・福祉便利帳★



ひとり暮らし応援事業者ネットワーク加盟店の皆様のご協力で、買い物の支援をしてくれる事業所やひとり暮らし高齢者サービスのご案内を掲載した「ひとり暮らし応援買い物・福祉便利帳」を作成し、市の出張所や豊中市すこやかプラザで配布しています。

また、「とよなか安心キット」とともに市の高齢者支援課に登録しているひとり暮らし高齢者に、民生・児童委員の皆様のご協力で配布しています。

★「とよなか安心キット」が配布されて…★

豊中市消防本部 中井 正平さん

6～7月に配布が始まった「安心キット」で助かった例はすでに3件あります。救急隊からは「患者さんが話せないときに助かる。持病や飲んでいる薬の情報がわかると、病院が受け入れるときや治療をするときにスムーズに対応できる」と好評です。



豊中市における救急対応は、年間1万8000件、そのうち高齢者は65%ほどを占めています。高齢者は基礎疾患を持っている人が多いため、救急対応の際に特に医療や薬の情報が必要になります。「安心キット」は住民からの反響も大きく、「どこでもらえるか」を尋ねられることもあります。

今後はキットの中の書類の情報が古くならないように、定期的な情報の更新を行うことでつながりができる可能性もあると思います。

★ひとり暮らし応援事業者の見守りがはじまって…★

～事業者からの緊急連絡で命が救われた事例～



ある日の夕方、参画の応援事業者である新聞販売店より、配達した新聞がポストに溜まったままになっている家があると連絡がありました。すぐに社会福祉協議会の職員が駆けつけると、自宅内で倒れて動けなくなっている家主を発見。救急搬送し一命を取り留めることができました。

この他にも、応援事業者による見守りがはじまってから、「毎月きちんと新聞代を支払ってくるのに、ここ数カ月来ていない」「前日に配った弁当や商品がそのままになっている」など、市社協には平成22年度13件、平成23年度にはすでに2件の連絡があり、命を救う案件も続いています。連絡後、介護保険サービスや校区福祉委員会による地域活動を紹介するなど、新たなつながりを作っています。事業所ならではの見守りがセーフティネットを担います。

～編集後記～

この3年間で重層的な見守り体制が進みましたが、保証人問題や安定した財源の確保については、あと半年のモデル期間に検討を重ねていく予定です。

～より良い制度の創造に向けて～

安心生活創造事業ニュース



発行 平成23(2011)年9月20日

豊中市社会福祉協議会 豊中市岡上の町2-1-15

安心生活創造事業シンボルマーク

電話 (06)6848-1279

安心生活創造事業イメージイラスト

★安心生活創造事業とは…★

安心生活創造事業は、平成21年度よりスタートしている厚生労働省の国庫補助事業として、全国53市町村で3年間のモデル事業として実施され、今年度は最終年度を迎えます。豊中市では、豊中市社会福祉協議会が市より委託を受けて事業実施し、ひとり暮らし高齢者などが地域で安心して暮らせるように、①安心協力員派遣サービスの制度化 ②ひとり暮らし応援事業者のネットワーク化による見守り活動(2面参照)と買い物・福祉便利帳の発行 ③地域福祉活動との連携として75歳以上のひとり暮らし高齢者のアンケート調査のフォローや安心キットの配布等により新たな地域とのつながりを広げていきました。

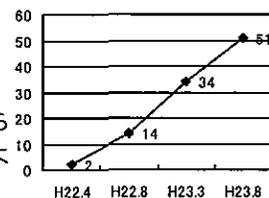
★安心協力員派遣サービス★

平成22年4月から開始した安心協力員派遣サービスは、2年間で約200名の安心協力員を養成し、現在50件を超える依頼に対応しています。

平成23年9月からサービスの対象年齢を75歳以上から65歳以上に引き下げ、より多くの方にご利用いただけるようになりました。

サービスを開始して2年が過ぎ、利用者の中には介護保険サービスにつないだり、判断能力に不安を感じ、権利擁護の必要な方の早期発見につながっています。

登録者数の推移

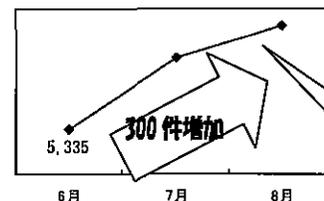


★「とよなか安心キット」を配布★

「安心生活創造事業」の一環で、「とよなか安心キット」を作成しました。民生・児童委員の協力を得て、今年の6月から8月にかけて、市の高齢者支援課に登録しているひとり暮らし高齢者を対象に配布し、大きな反響を得ています。このキットには、かかりつけ医などを記入した緊急連絡票や、救急活動に必要な情報を容器に入れ、冷蔵庫で保管して、もしもの時に備えます。



▲とよなか安心キット



「安心キット」の配布にもなって、市のひとり暮らし高齢者の登録数も大幅に増加！！

★読売新聞 YC 豊南 梅田 靖さん

読売新聞 YC 豊南販売店では、新聞配達や集金の際に見守りを行っています。

今までは異常を感じたら、家族の方の連絡先を聞いたり、業務以外で訪問することがありましたが、この事業が始まってからは、「家族さんに連絡する手段もあるが、まずは社会福祉協議会に連絡して相談することもできる」と従業員に言っています。私達と社協が定期的に訪問することで、万が一を防げます。また、以前から従業員は集金や配達で気にかけていましたが、事業のステッカーを貼り、看板を置くことで、意識が変わり、自分たちに何ができるかを考えるようになりました。新聞配達担当ってきた「顔の見える関係」を大切にしています。



★毎日新聞豊中販売所 中村新聞舗 中村 龍男さん

私の販売所では、安心生活創造事業に参加したことによって何か特別なことを始めたということはありません。これまで続けてきたように配達先のことを、「仕事の延長線上で」気にかけて見守っています。これからは、毎日新聞の一店舗ということだけでなく、毎日新聞の他店舗や毎日新聞以外の4社も含めて、このような見守りが広がってほしいと思っています。先日、毎日新聞の配達員の連絡で、実際に住民の方が間一髪で助かることができて本当に良かったです。これからは、現場で長い経験のある従業員だけでなく、若い学生の配達員にも、このような住民を見守る意識が浸透していくように日々の業務の中で取り組んでいきたいと思っています。



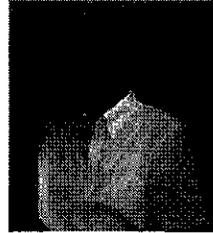
※インタビューには奥田愛祐美さん（大阪大学 人間科学部4回生）李 道子さん（大阪市立大学 大学院創造都市研究科 修士課程）にご協力いただきました。

ひとり暮らし応援事業所による
見守りの取り組みから

新聞配達や宅配事業、郵便配達、電気小売業者などのひとり暮らし高齢者を支える事業所との連携やネットワークを形成し、まちぐるみで見守る体制をつくっています。

★生活協同組合コープこうべ大阪北地区本部 岩山 利久さん

コープこうべでは、週1回の宅配サービスの際に見守りを行っています。宅配は顔が見え、名前がわかる関係です。名前がわかる安心感で、様々な相談を受けることもあり、週1回の訪問を楽しみにしているというお客様もおられます。9月末からは、豊中市内の一部で配食サービスを始めますが、そのことが個々の見守りにつながればと考えています。具体的には、時間はかかりますが、地区としてサポートしたいと考えています。宅配担当者の見守り活動への意識が高まれば、地域貢献の幅も広がります。事業者の立場からも、このようなことを大事にしていきたいと思っています。



ひとり暮らし応援事業者ネットワーク会議

★吹田ヤクルト販売株式会社 高木 大雅さん

吹田ヤクルトは大阪北部地域を対象に事業を展開しており、豊中については全域をカバーしています。ちなみに、私も豊中のヤクルトレディーも全員豊中市に住んでおり、豊中市や地域にとっても愛着があります。もともとヤクルトは「健康で楽しい生活に貢献する企業」としてお客様との人間関係を大切にしてきました。お客様と対面するときには、体調を聞くことも多く、またひとり暮らしの方の変化にも敏感に対応しています。安心生活創造事業に参加することで、お客様に何か異変があったときに連絡する場所がわかったことがよかったです。

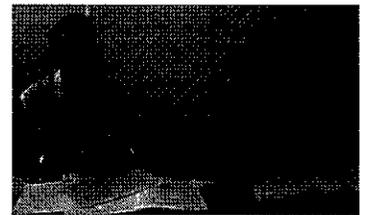
また、バイクにステッカーを貼っているヤクルトレディーさんも、地域の取り組みに貢献しているという事で仕事に対するやりがいが増えています。



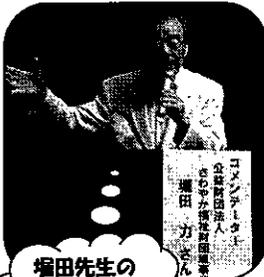
★豊中市上下水道局お客さまセンター窓口課 津田 晋さん 小川 かおりさん

上下水道局では検針の際に、使用水量の変動（増減）を確認しています。実際の現場では使用水量の大幅な低下があったときに、心配だなという気持ちとプライバシーの問題で悩むことがとても多くあります。しかし、上下水道事業は人びとのライフラインであり、広く社会のセーフティネットの一翼を担っているという使命から、利用者の緊急時を見逃さない対応を心掛けています。

今年1月市内で60代の姉妹が孤独死をされた事件を受けて、具体的には7月から、上下水道局職員と窓口関連の民間委託事業者を対象に、「お客様の困りごと等の相談・対応について」と題して職場研修を実施しました。この研修では「気づく・つなげる」機転が命を救うというキャッチフレーズを業務に活かしていきたいと思っています。



★堀田 力 先生のご講演を伺いました★



堀田先生の
ユーモア
溢れるお話

8月22日、アクア文化ホールにて、介護相談員派遣事業&安心生活創造事業 合同講演会が開催されました。さわやか福祉財団理事長堀田 力さんより「家庭の施設化と施設の家庭化」をテーマに、「尊厳」あるその人らしい生き方を実現することが大切であることを、事例を交えて分かりやすくご講演いただきました。

ご講演後、堀田先生からは、「『尊厳』を実感していただいた事をとても嬉しく思っています。素敵なお聴衆の皆さんでした。」とコメントをいただきました。

今後とも、定期的に、安心協力員の研修や交流会を開催していく予定です。

★ボランティアカフェでお待ちしています★

各地域福祉活動支援センターで月1回開いていたカフェに、今年の6月から、安心協力員がボランティアとして協力しています。コーヒーを作ってお出ししたり、地域の方とお話に花が咲いたり・・・あちこちで笑顔が見られています。お近くへお越しの際は、おいしいコーヒーとスタッフやボランティアの笑顔に会いに、ぜひお越しください。心よりお待ちしております。

今後とも、安心協力員が活動の場を広げて、地域で活躍されることを期待しています。

★テレビで放映されました★

NHK「かんさい熱視線」(9/8放送)、NHK「孤立から救い出せ～“セルフネグレクト”に陥らないために～」(10/8放送)で、安心協力員が訪問する男性のケースなどを通して、孤立死問題に対する豊中市社協の取り組みが放映されました。放映後、各地から問い合わせや相談、激励の電話があり、反響の大きさや支援の重要性を感じています。

9/4～10/9の間、社会福祉士実習で来られていた吉武愛美さん(大阪人間科学大学3年生)に、安心コールの利用者・ボランティアや事業所への聞き取り、原稿作成など本紙作成にご協力頂きました。吉武さんの感想です。

「豊中市社会福祉協議会での実習では、ほんとうにたくさんの方の事を学ばせて頂きました。社協の職員の方々にはもちろん、安心生活創造事業ニュース作成を通してお話伺った地域のボランティアの方々や、事業者の方々の持つ『独りで困っている人をほっとかない』という人情味あふれる思いにも、気付かされるものがありました。今回の実習経験を活かし、精進して行きたいと思っております。ありがとうございました。」

～編集後記～

今回、ひとり暮らし応援事業者ネットワークの活動が奨励賞を受賞し、評価されたことは、大変光栄なことです。この事業にご協力頂いているすべての方に、感謝申し上げます。モデル事業の3年間で積み重ねてきたことを土台にして、より多くの高齢者の方々が安心した生活を送れるように、これまでの制度をよりよいものにし、新しい活動に取り組んだりしていきたいと思っております。今後とも、皆さまのあたたかいご支援・ご協力をお願いいたします。

～より良い制度の創造におかれて～

安心生活創造事業ニュース



No.2

発行 平成24(2012)年11月1日

豊中市社会福祉協議会 豊中市岡上の町2-1-15

安心生活創造事業シンボルマーク

電話 (06)6848-1279

安心生活創造事業イメージイラスト

★安心生活創造事業とは・・・★

安心生活創造事業は、平成21年度より厚生労働省の国庫補助事業として、全国53市町村で3年間のモデル事業として実施されました。これまでの事業の成果は、全国的にも先駆的かつ効果的な取組みとして注目されており、引き続き、2年間、国のモデル事業の指定を受けることになりました。豊中市では、豊中市社会福祉協議会が市より委託を受けて事業実施し、ひとり暮らし高齢者などが地域で安心して暮らせるように、①安心協力員派遣サービス ②ひとり暮らし応援事業者のネットワーク化による見守り活動 ③地域福祉活動との連携として75歳以上のひとり暮らし高齢者のアンケート調査のフォローや安心キットの配布等、これまでの事業に加えて、④安心コールの実施 ⑤出前市場による買い物支援 ⑥安心協力員によるボランティアカフェのお手伝いなど、新たな展開を進めています。

★ひとり暮らし応援事業者ネットワークの活動が「大阪商工信金社会福祉奨励賞」を受賞しました！★



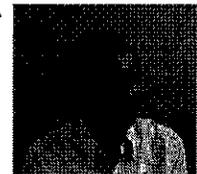
地域のひとり暮らし高齢者を、生活関連事業者が日々の仕事を通してまわぐるみで見守る「ひとり暮らし応援事業者ネットワーク」が、この度「大阪商工信金社会福祉奨励賞」を受賞しました。このネットワークでは新聞や郵便配達、宅配、電器小売業者、コンビニなど22事業者約500店舗が参画し、「新聞がたまっている」「配達したものがそのままになっている」等顧客の変化に気づいた際は、社会福祉協議会をはじめ各関連機関へ連絡通報を行うシステムを作っています。これらが他地域へのモデルとなりうる事業だと評価され、今回の受賞となりました。

★事業所の活動(生活協同組合コープこうべ 大阪北地区本部)★

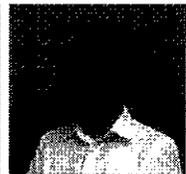
生協は地域社会の一員として事業活動と組合員活動を行っています。豊中だけでも約16,000軒のお宅に商品の宅配で訪問しています。「個人宅配」では週1回玄関先まで配達に伺いますので、ひとり暮らしの高齢組合員様の体調等の様子はいつも気にかけています。また、組合員による有償サポートが配達している「夕食宅配」でもそれは同じです。訪ねても応答がなく様子が気になるときに、社会福祉協議会に相談できるということは、事業者としてもたいへん安心感があります。

今回、ひとり暮らし応援事業者ネットワークの一員として、地域の協力事業者の皆さんとともに奨励賞を受賞できたことを大変うれしく思っています。

商品の宅配を通じて、お買い物のサポートをさせていただくためにも、今後ご利用組合員を増やし、地域でのひとり暮らし応援事業者としての存在意義を強めていきたいと思っております。そのために、日頃訪問させていただく職員の「助け合い・見守り合い」の感性をさらに高めていきたいと思っております。



本部長
岩山 利久さん



組織統括
中 秀俊さん

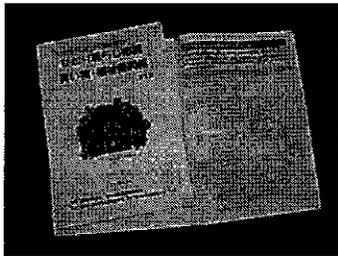
★ひとり暮らし応援事業者の見守り事例★～日頃のご協力ありがとうございます。

○新聞販売所からの連絡で、「数日前にもそれまでの新聞がたまっているのを見かけたので救急に連絡したが、その時は入院しなかった」という方の家に、その後「また新聞がたまっている」という連絡を受け、社会福祉協議会の職員と民生委員とで訪問しました。呼びかけにも応答がありませんでした。救急に通報し、入院へとつなぐことが出来ました。



○宅配業者より、宅配日に不在だったので商品を置いていき、2日後に再度訪問するが、不在、新聞や牛乳もたまってきたままである。いつもは休止の連絡を頂いているので心配。民生委員に連絡し、様子を確認していただく。近隣の話では、ご主人が入院されているようで日中家をあけていることが多いが、夜遅くには奥様は戻られている様子とのこと。

★ひとり暮らし応援買い物・福祉便利帳が新しくなりました★



「ひとり暮らし応援 買い物・福祉便利帳」は、昨年、ひとり暮らし応援事業者ネットワークに参画された皆さんのご協力により作成され、2012年3月に第2版が出版されました。購入したものの宅配、配食、電球等の交換などを行ってくださる事業者の連絡先が掲載されています。

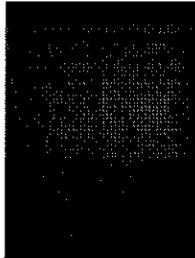
この冊子は、豊中すこやかプラザや市の出張所で配布しています。また、救急活動に必要な情報やかかりつけ医を記入したものを容器に入れておく「とよなか安心キット」とともに、市に登録しているひとり暮らし高齢者に、民生委員の皆さんのご協力で配布しています。

★府営住宅に出前市場がやってきた！★

高齢になるにつれて大変になる買い物のお手伝いをしようと、「府営桜塚住宅活性化プロジェクト」のひとつとして、豊中市小売商業団体連合会のご協力の元、出前市場が開催されました。平成24年2月に初めて開催されたこの市場では、野菜、パン、お米、お茶、お花、豊中銘菓・白球もなかなど様々な商品が並べられ、普段はなかなかサロンなどにも来られない多くの方が足を運ばれて、大盛況となりました。大好評につき、今後も定期的で開催されていくことが決まっています。購入した品物が重たければ、社協で支援している若者たちが自宅まで運ぶお手伝いをします。自治会主催の100円カフェも開催されており、住民と地域の人たちをつなぐ場となっています。



普段はなかなか外に出てこれない高齢者の方たちもたくさん降りてこられ、買い物を楽しむ人たちがにぎわう。



自治会主催の100円カフェも開催。

★安心協力員派遣サービス★

ひとり暮らしで日常生活に不安のある高齢者の自宅へ、一定の研修を受けた安心協力員が定期的に安否確認を兼ねて訪問します。(初回登録料2000円、訪問 月1回800円) 話し相手や情報提供に加え、必要に応じて緊急時の支援や買い物、入院の手続き・連絡のお手伝い、緊急通報システム利用時の鍵預かりをします。また買い物支援・宅配サービスなどをおこなっているひとり暮らし応援事業者などを紹介します。

サービス対象者は65歳以上のひとり暮らし高齢者で、介護保険の申請をしていない方です。

★安心コールが始まりました★

今年5月から週一回、安否確認の電話を掛ける「安心コールサービス」がはじまりました。(初回登録料2000円、利用料 月200円) このサービスは、普段は元気に過ごしているけれど、もしも急にになにかあったら…と不安な気持ちを抱えている65歳のひとり暮らし高齢者の緊急SOSをいち早くキャッチし、適切な支援を迅速におこなえるようにしています。

